

	オンラインテキスト
1	ゲストスピーカーである久保さんが過去を率直に話してくださったことで、ほんとうに自分が何をやりたいのか、どうしたいのか考えるきっかけになった。行きたかった業界に就職が決まったが、心の片隅に不安を感じていた。岩手や九州など、いろんなところで自分を模索し続けていらっしやった久保さんの話を聞いて、「まずはやってみて、無理だったらそのときに考えよう」という気持ちになった。常に自分がどう思っているのかを振り返りつつ、社会人生活をやっていこうと思う。
2	本日の授業で素晴らしい人生について聞くことが出来ました。被災地の人から「また来てね」「忘れないで」と言われたという話に考えさせられました。その言葉には、ただのお礼ではなく、「ここで起きたことを心にとめていてほしい」という気持ちが込められているように感じました。時間がたつと、どうしても被災地のことを忘れてしまいがちです。でも、被災した人たちにとっては、震災は今も続いているようなものかもしれません。「忘れないで」という言葉には、自分たちの経験や思いを誰かが覚えていてくれることが、大きな支えになるという意味があるのだと思いました。そして、移住者が地元に戻ることに對して、無責任と言われ、非難されることについて、自分も「移住＝骨を埋める」じゃないと思っています。自分の人生、好きに生きて、他人のことを気にしない方がいいと思いました。
3	就職活動を終えた身としてもう少しはやくにきいておきたい話だと思った。就職活動中は自身が何かを深く考えすぎるあまり、本質を見失っていたような気がしているため、もう少し自分に正直になることがよいと感じた。
4	ボランティアや他人のためにできることについて考えるとき、どうしても利他的な視点に立ちがちだが、数多くのボランティア活動に従事されてきた久保さんの自分の幸せを追求することで、おのずと他人のためになるという視点が興味深かった。自分が何をしたら幸せになれるのかについて理解することは、他者が何をされたら幸せになるのかを考えるよりはるかに容易なので、そういった意味では自分の幸せとは何か、を指針にするだけでボランティア活動などに対するハードルが低くなる気がした。
5	この授業を通して、「自分らしく生きる」とは、自分の“根源”を見つめ直し、周囲の価値観に流されずに、自分が本当に喜べる選択を重ねていくことだと感じた。久保さんの生き方は、キラキラした成功談ではなく、むしろ「自分が分からなくなった時期」や「期待がプレッシャーになった経験」など、等身大の悩みとともに語られていたからこそ強く心に響いた。特に印象に残っているのは、「仕事から考えると人生の選択肢が狭くなる」という言葉で、私自身、キャリアや将来の不安ばかりに目を向けがちだったことに気づかされた。また、「学生のうちにたくさん大人に頼る」というメッセージも励みになった。困難を一人で抱えるのではなく、周囲と関わりながら試行錯誤することが、結果的に地域や社会のためにもなるのだと学んだ。この授業は、これからの人生において迷ったときに立ち返るための大切な指針を与えてくれたと思う。もう私の就職活動は終わったが、改めて自分自身と向き合い、根源を見つけ、もっと多くの経験をしていきたいと感じた。
6	今回の講義を通じて移住や仕事に対する考えについてのお話を聞く中で、もっと「自分本位」な考えをしてもいいのだという感想を抱いた。就職活動をする中で周囲からの期待や学歴から来るプレッシャーにより自分が何をしたいのか、どんなことに興味があるのか分からなくなることが多々あった。しかし移住や転職を繰り返す中で自身のやりたいことを見つけていくという選択肢もあるのだということが分かり、自身のキャリアについてそこまで思いつめる必要はないのだと少し心が軽くなった。

7	久保さんのお話を聞き、「移住者」という言葉の使い方についてとても良い気づきがあった。地方へ移住してきた方というのは、なんとなく何かを成し遂げたい・挑戦したいという思いで移住してきたのだと無意識に思っていた。しかし、仕事の都合や住環境など様々な理由で移住してきた人がいることを改めて考えさせられた。特に東日本大震災以降は、被災地に足を運ぶこと自体が素晴らしいこととして捉えられていて、その延長線上に「移住者＝すごい」というイメージが地域の人に ついてしまったのではないかと感じた。高齢化が進む地域ではどうしても、移住してきた人(特に若い人たち)への期待は高まってしまふ。しかしその期待が彼らへのプレッシャーとなってしまふのは意味がないと感じた。 また、陸前高田市の前市長は何十年も前にやって来た「移住者」であり、そのことを選挙や政策に動きがあるたびに、「あの人は外の人・移住者だから」と言って非難されたそう だ。移住者はいつまで移住者と区別されるのだろうか。安易に「移住者」という言葉で人を括ってしまっていたことを自分自身とても反省した。
8	久保玲奈さんの講演「自分らしく生きる」は、単なる成功譚ではなく、痛みを伴う失敗と、そこからの誠実な再生を描いた等身大の記録であり、深く心を揺さぶるものであった。特に、小中学校時代の苦い経験を経て、高校で「全員が個性だらけで楽しい！」と感じた原体験は、後の人生で「自分らしさ」を探究する上での原点であったように感じられる。 彼女が陸前高田市へ移住するに至った心の変遷は、極めて印象的である。当初の「見ておかなければ」という義務感が、活動を通じて「力になりたい」という使命感に変わり、最終的に地元のおばあちゃんにハグをされた経験などを通じて「ここに住みたい」という純粋な願いに至る過程は、論理や計算ではなく、人と人との温かい繋がりこそが人生の大きな決断を導くことを示唆している。 しかし、その決断の先には厳しい現実が待ち受けていた。「移住はすごい」という周囲の期待がプレッシャーとなり、建築士として現場の大工に的確な指示を出せないなど、理想と現実のギャップに苦しむ姿は非常にリアルであった。そして、職と家を失い「自分」が分からないというどん底の中で、学生時代の恩師たちに助けを求める素直さと、それに応える周囲の大人たちの存在は、困難な時代を生きる我々にとって、人間関係というセーフティネットの重要性を改めて教えてくれる。 本講演で最も大きな学びとなったのは、キャリア形成における逆転の発想である。「仕事」を起点に人生を設計するのではなく、自身の「根源」、すなわち「休日の過ごし方」や「好きなこと」から自分を見つめ直すという手法は、行き詰まりを感じた際の強力な処方箋となりうる。彼女が自己分析の末に見出した「1→10（企画・遂行）が得意」、「人から学ぶことが好き」という自身の特性が、現在の防災活動という具体的な形で社会に貢献している事実は、「自分が喜ぶ行動が、結果的に誰かのためになる」というメッセージを力強く裏付けていた。
9	本日の授業で印象に残ったことは「自分が本当に楽しいことを大切にする」ということだ。久保さんのお話の中で木の例えが出てきたが、自分が自分に満足できている状態（根の部分）でないと仕事（枝の部分）も楽しくなくなってしまう。とおっしゃっていた。そのお話にハッとさせられた。 最後のワークで自分の理想とする1日について考えたことで、自分が何をしている時が楽しいかを改めて知ることができた。来年から社会人なので自分を大切にしつつこれからの人生を送っていき たい。

10	自分のことは分からなくなっただけ、好きな場所はわかっていただけ、大手を振って出ていっても戻ってきたことで今は幸せ。という言葉聞いて、すごいなと思いました。私は地方出身なので、田舎の大変さを知っているし、ましてや一人で行くのは私自身、地元以外では無理だなと感じました。また、コンビニで10円が足りなかった時の例が印象に残っていて、借りる側だったら、10円程度が足りないの恥ずかしいな、返すにしても申し訳ないと思ったり、かす側だったら、10円くらい全然あげれるし、なんなら、返さないと思って言い出せなかったりするのかなと心配になるなと思いました。でもそれは相談事と同じだということにとっても共感しました。 ディスカッションでは、幸せな一日について話し合いましたが、私たちのグループは全員が4年生で来年から就職なので、リアルな話が沢山出ました。平日では仕事をしつつ、早く退勤してサウナや岩盤浴、ネイルや美容院、映画などに行き、充実したと思える一日にしたいという意見になりました。休日だったら3つの軸があるなと話しました。1つ目は、時間を気にしない、気にしたくない、例えば、電車を使うと時刻表をみたりするので自転車を使ったり、スケジュールを立てずにピクニックでぼーっとしたりするなどです。2つ目は、人混みに行かない、行きたくない、例えば都会の真ん中でショッピングなどは精神的にも疲れるので避けたいということです。3つ目は、デジタルデトックスをするということです。休日にまでデジタル上のコミュニケーションや仕事の連絡などは受けたくないという意見が出ました。そのうえで、東京勤務なら郊外に出たり、地方にいるなら自然が豊かなところに行ったり、社会人になったからこそできるアクティビティなどもやってみたいという話になりました。
11	久保さんの幼少期のいじめや大学時代の東日本大震災でのボランティア経験を経て、陸前高田市への移住に至ったお話の中でも、移住後の仕事や家を失う経験から「自分」を見失いながらも、学生時代に得た「頼っていい」という教えや、自身の根源を明確にすること、小さな目標達成の重要性を通して「自分らしく生きる」ことを見出した点は大変興味深かった。また、仕事ありきではなく、休日の過ごし方や学び方など、自分が喜び行動から考えるという視点は、これからの人生設計において非常に参考になると感じた。
12	自分の内側にある欲求に目を向けること、また自己実現のために周囲の存在を頼ることの大切さを実感した。私自身も何かをするべきという思考に囚われ、自分自身が今何をしたいのかという意思に目を向けられていないことがあるため、強く共感した。また1人で抱え込まず、周囲に相談したり友人と何気ない会話をするだけでも心が楽になる経験はあったため、幸せな日々を過ごすためにこの二つは意識していきたいと感じた。
13	当初は震災の地を見ておかなければという義務感だったのが、力になりたいという使命感に変わり、その後そこに住みたいと自発的に思うようになっていく過程の話が印象的だった。自然な流れで、人生の一部として経験を重ねることで感情が変化し、人生の方向性が転換していく様子が感じられて刺激を受ける講義内容だった。被災地に移住すると聞くと、とても大掛かりなこと、すごいことのように想像し難かったが、講義内でも述べられていたように、特別難しかったり大層なことではなく、久保さんにとっては自然なことだったのだということが分かった。自身にとっても無関係のことではなく、将来的に移住が一つの選択肢にもなり得るのかもしれないと感じた。
14	本日は公演ありがとうございました。 今日のお話の中では、人生で、仕事を優先してまで、自分の幸せを犠牲にしなくて良いのではないかなというお話が深く印象に残りました。 私も、就活を進める中で、本当にこれで良いのかと思うことはたくさんありました。というのも、就活の中で、残業時間や、福利厚生、転勤の有無で、自分を幸せにする物との関わり方が大きく変わってしまうからです。しかし、お話を聞いて、自分が持っていた疑問もやはり大切な物ではないかと改めて気づくことができました。 貴重なお話ありがとうございました。

15	以前南三陸に復興を機にボランティアとして関わり移住した方のお話を講義で聞いたことがあった。その女性は自分が部外者であることに葛藤を抱いていたが、久保さんは仕事で何をすべきかを追い求めている、その違いが興味深かった。 幸せな一日は離れて暮らす家族などと過ごす日であり、結構実現されていると気が付いた。 貴重なお話ありがとうございました。
16	久保さんのお話を聞いて、自分と重なることが沢山あったと感じた。特に印象に残ったのは、「自分がやりたいことをする」と「楽しそうにしている人はやっぱりついていきたい」という二つだった。「自分がやりたいことをする」に関しては、自分の人生なんだから自分軸で考えるべきだという久保さんの考え方に深く共感した。自分は今大学3年生で、就職活動をしなくてはいけない時期である。しかし、長年踏み出せないでいたドイツへの留学をせずに社会人になったら後悔してしまうのではないかと思います、留学を決めた。卒業を1年間遅らせて、同級生と異なる動きで人生を歩んでいくことに対して、今現在もすごく恐怖がある。自分は環境が変わることが怖くて、したいことがあってもなかなか踏み出せないことが多いため、久保さんが行動を起こし続けることができるのはなぜなのかが気になった。久保さんは学生時代からボランティア活動をし、東京と陸前高田を行き来しながら、最終的には陸前高田に移住をしたと仰っていた。私も久保さんのように、人に頼りながらも、自分のやりたいことを求め続けられるような人間になりたいなと強く思った。
17	今回の講義では、久保玲奈さんの話を聞いて、これからの生き方について考えさせられた。東京で育った久保さんが、大学時代に東日本大震災の被災地である陸前高田を訪れ、その後、本当に引越してしまったという行動力にはとても驚いた。 最初は「力になりたい」という思いだったのが、次第に「ここに住みたい」という気持ちに変わっていったという話がとても心に残った。ただのボランティアとして関わるだけでなく、自分の場所として受け入れようとする気持ちはとても強く、素敵だと思った。 「移住＝すごい」と言われるけれど、久保さんは「自分が住みたいと思ったから住んでいるだけ」と話していた。この言葉がとても印象的だった。他の人の目ではなく、自分の気持ちを大切にしているところが、とてもかっこよかった。 ただ、その後の生活は順調ではなく、仕事や住む場所を失ってしまったこともあったと知りとても意外だった。しかし、そこから「小さな目標を少しずつ達成する」ことで前に進んできたという話にはとても勇気ももらった。何か大きなことをしなくても、自分のできることから少しずつやっていけばいいのだと思えた。 また、「学生のうちにたくさん大人に頼っていい」というメッセージも、心に残った。今の自分はまだ経験も知識も足りないもので、不安なことが多い。でも、先に人生を歩いている人から学ぶことで、新しい気づきやチャンスが生まれるのだと思った。 久保さんの話は、震災をきっかけにした特別な体験であると同時に、「自分らしく生きるとはどういうことか」を教えてくれるものであった。私も、自分にとって大切なものを見つけながら、少しずつ前に進んでいきたい。
18	今までの考え方を考えることができるお話を聞かせていただくことができたと思います。また、ボランティア活動も地域のために行くことももちろんであるが、自分がやりたいことということが一番大切であるとわかりました。これは、ボランティアに関わらず、就職先や部活動などにもつながることができると思いました。どこか困難に立ち向かった時、自分の根源を思い出し、なぜこのような行動をしているのかなどを思い出すことが大切であると分かりました。
19	私は、自分にとっての幸せな1日とは、平日は仕事終わりに友達と飲みに行ったり、休日は旅行に出かけたりして自分の好きなことに費やすことだと思った。そのためには、ある程度自分の仕事が好きで、余裕を持った暮らしができていたらいいと思う。就職活動ひとつとっても選択肢が多く、戸惑ってしまうが、自分が選んだ道が正解だと思えるような行動をすることが一番大切なのではないかと感じた。

20	今回の講義を通して、「自分らしく生きる」ということの本当の意味について深く考えさせられました。久保さんの生き方は、他人の評価や一般的な「成功」とは違う視点で、自分の幸せを追い求め続けた軌跡でした。震災地との出会い、移住という選択、何度も立ち止まりながらも前に進む姿から、幸せは「どこに住むか」や「何をしているか」ではなく、「自分がどうありたいか」によって決まるのだと感じました。そして、グループディスカッションを通じて、幸せを感じる時間やきっかけは本当に人それぞれであることにも改めて気づきました。だからこそ、自分の価値観を他人に押し付けたり、正解を強要したりするのではなく、お互いの違いを認め合い、尊重しあうことが大切なのだと思います。私も、自分にとっての幸せを大切にしながら、周りの人の幸せにも優しく寄り添える存在でありたいと思いました。
21	今回の授業では久保さんから大人に頼ることの大切さや、どうしたら自分の人生がより幸せになるかを考えながら生きるべきと言ったような教訓を聞くことができた。コンビニのレジで10円が足りなかった時の例では、人を頼るという行為が頼られる側から見ればそんなに重いことではないのに、頼る側からするとかなりハードルが高く見えてしまう気持ちが実感できた。久保さんの話を聞いていても、一時期職を失い悩んでいた頃に、頼ることのできる大人の話を聞いて自分の人生を軌道修正することができたということはそれだけ人に頼ってみるということが人にとって大きな転換になり得ることを表すものだと思う。私も自分だけで全てを解決しようとせずに、できるだけ人の意見を聞いて参考にしていこうと改めて思った。貴重なお話をありがとうございました。
22	お忙しい中貴重な機会をいただき本当にありがとうございました。序盤で話されていた、大学時代は楽単を選択した友達と距離をとっていたという時点ですごいなと感動しましたが、自発的にボランティアに参加したり、社会人になって挫折しても自分のやるべきことや何をしたいかを見つけ自分を幸せにする姿勢が私だと中々できないので本当に心から尊敬できました。特に自分が喜ぶ行動をするという点が心に残っています。ぼんやりですが就職について考える時、毎回自分がやりたい仕事に就くべきか向いている仕事に就くべきなのかを考えてしまいます。久保さんが仰っていたことを踏まえると、やはり自分のやりたいことを優先しても良いのかなと思いました。仕事面だけでなく、生活面でもすごく大事な考え方だと思うので、このマインドは大切にしたいです。また、もしかしたら遅いかもしれないけれど、残りの大学生活で積極的にボランティアに参加したり、沢山の人の人とお話したり自分の中で”経験”を増やしていけたらいいなと思いました。
23	お風呂場の跡や花壇の痕跡など日常の跡というものは見たことがなかったため、震災後すぐではないと見ることでできないという義務感というものがあったということが腑に落ちた。自分のなかでも、移住＝大変なことというイメージがあった。そこにはやはり、東京など都内の方がアクセスが発達していたり、イベントの多くも都内で開催されていることから、都会の方が便利だ、田舎は大変だという印象があるからだと思う。実際の就職活動でも、自己分析と企業研究が大事であるように、何をするにも自分を知ることが自分のために最も重要なのだと感じた。確かに、頼ることは言いにくかったり遠慮してしまったりするが、勇気を出して頼ってみると意外とすんなり受け入れてもらえ、その後の相談もしやすくなるといったことは自分も経験がある。ただ、やはり相手が忙しかったりすると少し迷惑がられているように感じる時もある。自分は、家族や趣味を大切にする時間がありながら、ある程度好きと思える仕事をできる日常が過ごせたら幸せだと思う。

24	久保玲奈さんの講演「自分らしく生きる」は、今の自分の悩みや将来への不安に重なる部分が多く、とても心に響きました。特に印象的だったのは、「移住＝すごいわけではない」「自分が住みたい場所に住むだけ」という言葉です。周囲の期待や“正解”を気にしすぎていた自分にとって、久保さんの価値観はとても新鮮で、肩の力が抜けるような気がしました。また、人生の節目で「自分が分からなくなる」という経験を何度もされながらも、自分の“根源”に立ち返って一步一步前に進む姿に強く共感しました。「ゴールばかり見ていると動けなくなる。小さな目標を立てて達成していく」というアドバイスは、今すぐにでも実践できるヒントだと感じました。 「学生のうちに大人にたくさん頼る」というメッセージも印象的でした。頼ることは甘えだと思いがちですが、それも経験のうちだと考えると、自分の可能性を広げる行動なのだと思えました。講演を通して、「自分らしさ」は何か特別なことではなく、自分が喜ぶことや納得できることを選び続けることだと気づかされました。将来について焦りすぎず、一步一步、今できることをやっていこうと思えた貴重な時間でした。
25	本日のお話を聞いて、印象に残ったのは「自分の根っこを見つける」ということだった。大学に入り、将来つきたい仕事について少しずつ考え始めてはいるが、仕事に欲することといえば高い年収と短い勤務時間、福利厚生充実を真っ先にあげてしまう。これはきっと木で考えれば実の部分ばかりを考えてしまっていることに等しい。生まれる成果のことだけを考えると選んだ仕事はきっと長く続かないし、仕事することに面白さを感じないのだと気付かされた。自分と向き合うことは労力を必要とするという久保さんの発言にはとても共感した。ただ、その労力をかけた分、それを通して得たねっことはきっと生涯にかけて自分を支える根になり続けるんだろうと思った。大学生活を実りある結果にするために、まずは自分の根っこを見つけて、将来具体的な目標や夢を見つけた自分が使うことの出来る貯蓄（お金だけではなく、スキル、知識、経験など）という栄養を沢山蓄えたいと思った。また、久保さんが「移住」したことを「自分が住みたいまちに住んでいる」と表現していたのが印象的だった。「移住してすごい」という言葉の影には、引っ越した人は被災地のために住み込みで献身している、というイメージがあるのではないかと思う。だが、久保さんのお話を聞いて、きっと移住の理由はそのようなものではなく、単純に震災がきっかけとなって新しい地に出会った結果、引越しをするまでに至ったに過ぎないのだと感じた。私も、震災を通して東北に出会った身であるが、今では「被災地」としてではなくひとつの地域として大好きな場所になっている。（生まれたわけではないのに東北に行くことを「帰る」と言うくらいには。）今日お話で聞いたことを土台に、自分は東北とどうありたいのか（木のどこに関わるのか）をもう一度考え直してみようと思った。

26	今回は、ゲストスピーカーの方のお話を聞いた。私が印象に残っていることは大きく2つある。1つ目は「自分」が喜ぶ行動を考えるという「自分」を主語にして物事を考えるということである。私もボランティアサークルに所属しているがそのような活動をするときにも「他人」がどうしたら喜んでくれるだろうかという点に重きを置いていたように今振り返ってみると感じている。しかし今回のお話を聞いて新たな「自分」という視点を考えることができた。将来でのお仕事もそうだが「自分」が喜ぶ活動をすればおのずと自分自らが行う活動に精力的になり充実した活動を他人に還元することができると思った。一見、間接的に見え「他人」に幸せを還元することは難しそうに見えるが「自分」を通したからこそ「他人」に還元することができる幸せというものはより充実し深みのあるものになると考えた。2つ目は「移住」についてである。久保さんは「移住」＝自分が住みたい、住みやすい街に住んでいるということをおっしゃっていた。私も今までは「移住」を何か特別で大変で大きな決断なものであると思い込んでいたが今回の講義を通して考え方が変わった。政府も地方創生をきっかけ都市部から地方への移住を促進する政策を推進している。しかし本当にこのような伝え方が適切なのかと考えた。被災地への移住も地方への移住もそれぞれの人がある地域に魅力を感じ住みたいと考えたから実現するものである。それぞれの人がある自分の根源に立ち返って「移住」という枝を伸ばした結果実現するものである。だから「移住」＝すごいと考えるのではなく、「移住」が自分の木の根源から伸びた枝の一つの部分と考えることによって多くの人が「移住」を応援したくなるし、自分のハッピーな人生へと還元することができると思った。これから様々な悩みや大きな選択に向き合うことがあると思うが自分のハッピーな人生の構築のために様々なヒントを久保さんから頂き非常に貴重なお話をお聞かせいただきました。本日は、本当にありがとうございました。
27	私は久保さんのお話の中であった「自分が行動をする」「自分がやりたいことを仕事にする」というお話にとっても共感しました。自分のモットーが「ユニークであること」「迷ったらより面白い道を選ぶこと」で似ているように感じて、このまま生きていっても大丈夫なんだと励まされた気分になりました。また、授業の中で話題に上がっていた就職活動で過去に学んできたことやってきたことしか挑戦できないのではないかとという悩みに自分も悩まされていました。自分は特に専門性の高い学問を学んでいるわけではないので、どのフィールドに行っても自分より詳しく知っている人がいるということがコンプレックスで何事にも挑戦する意欲がなくなってしまうのですが、久保さんが仕事は例えるなら水のようなもので、過去は消えなくても新しい色水で上書きしていけるという言葉にとっても勇気をもらいました。今までやってきたことと違う道を選んでもそれがなくなるわけではないし、間違っているというわけでもなく、ただ別の色の人生になるだけだという、人生をもっと緩くとらえてもいいんだということが今回の講義での一番の学びでした。

本日のゲストスピーカーの久保 玲奈さんのお話を聞いて、自分がこれからどう生きるかということを考えるきっかけを作れたかな、と思いました。まず、久保さんは元々は肌の色のせいなどであまりハッピーではなかったそうですが、そこから久保さんが今はとてもハッピーになったそうです。私は今、人生で一番辛かった、受験生活が終わって憧れの大学生活に入ったと思ったのにも関わらず、あまり今楽しんでいる感じがなくて、可もなく不可もなくという日々を過ごしています。だからこそ久保さんの話はとても興味深く感じました。久保さんは被災地を訪れて、被災現場を見ておけばいけないという義務感、そしてまた来てねと言われたこと、学生の自分でも役に立てることができるかもしれないと気づけたこのによる嬉しさ、力になりたいという使命感をえたことによって、久保さんはそこに住みたいと思うようになったそうです。私は今、実家暮らしで頼ってばかりなため、自分はダメだな、と思っていたのですが、少しでもいいので私も誰かの力になりたいと考えました。しかし久保さんも仕事や住まいを失い、私なら耐えられそうにないなと思ってしまう状況に立たされたそうです、そこで久保さんは孤立せずに頼るという選択肢をとったそうです。久保さんは学生のうちに頼ることの重要さを教えてくれました。確かに、仕事上でできた頼れる方は学生時代に頼っていた方よりも頼りずらいな、と思います。私は迷惑かなと思い、一人で悩んでしまうことが多いのですが、10円玉の話のように、頼られる時自分が迷惑だな、と感じたことはなく、むしろ頼られると嬉しいなという感情にまでなったりします。だからこそ勇気を出して頼ってみるのもいいのかなと思いました。久保さんの仕事に関する考え方は自分の根源を分析することで、逆に先に考える仕事が見えてくるとおっしゃっています。私たちが将来選んでいくためには、当たってくる視点だと思います。私も漠然とした不安に焦らずに、カメのように一步一步自分の心がワクワクする方向に進んでいきたい思います。そして久保さんの「楽しそうな大人」のような生き方を私もしていきたいなと思います。